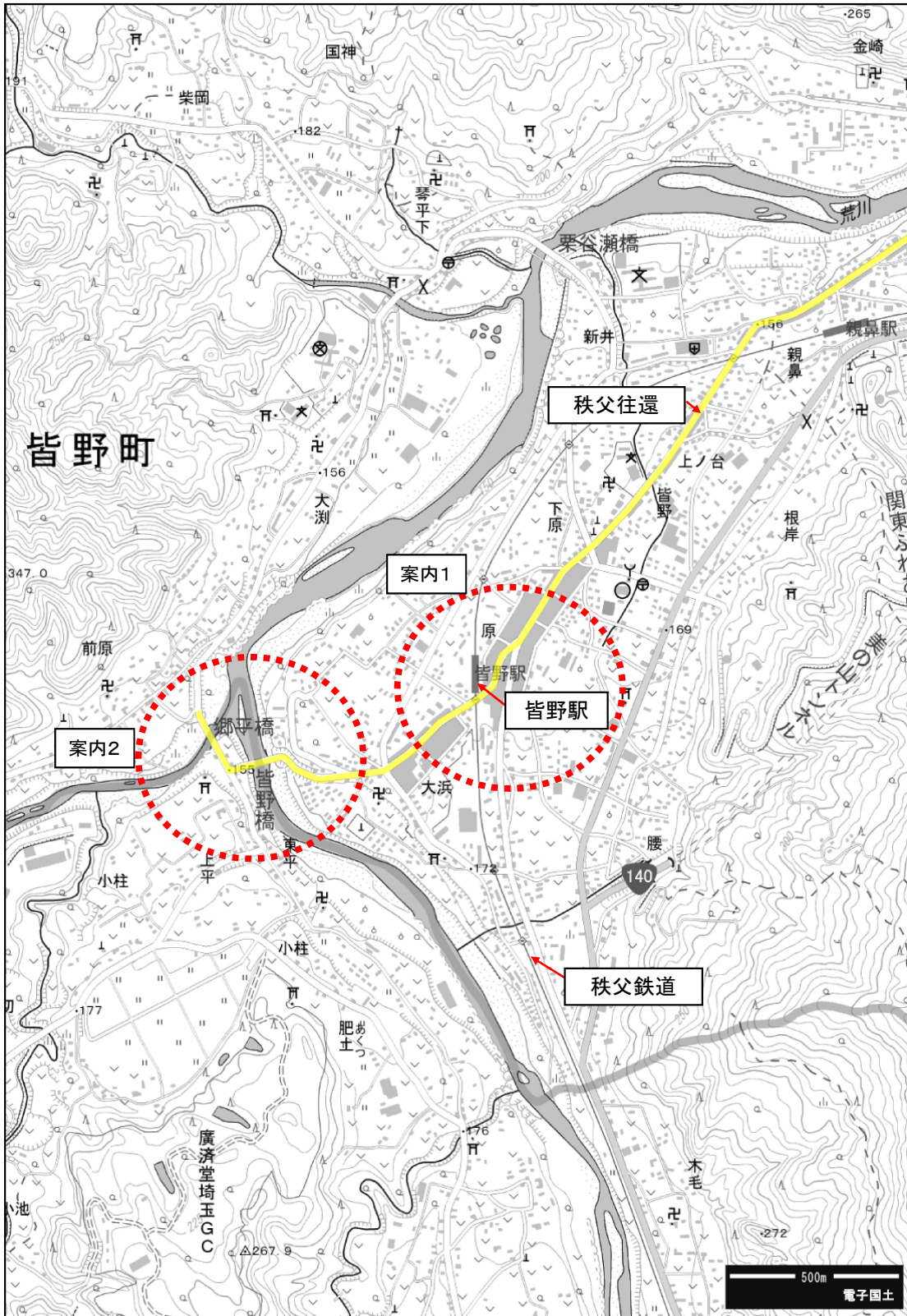


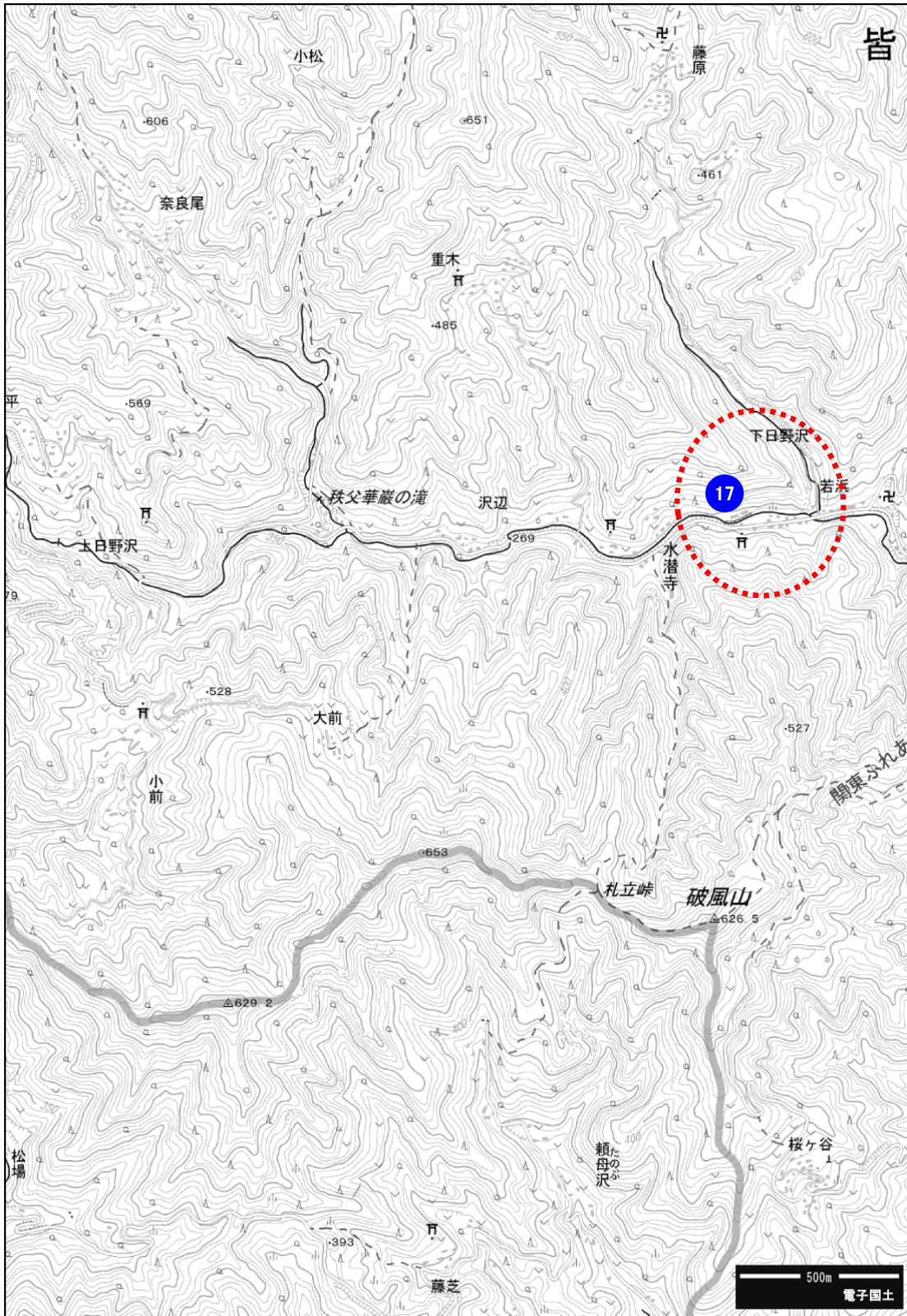
皆野



案内図

 調査範囲

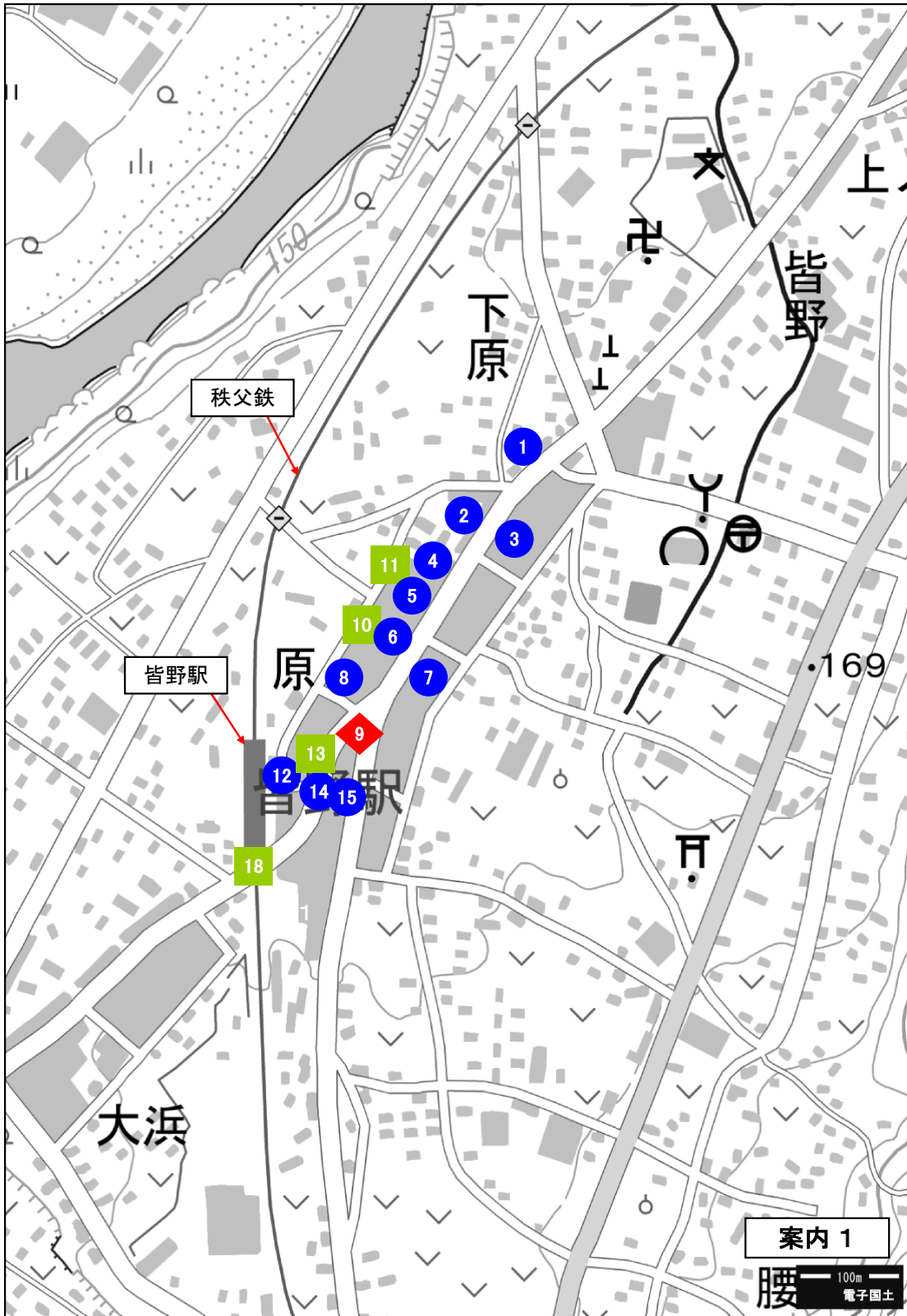
皆野



案内図

 調査範囲

皆野



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

皆野



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

皆野



皆野駅と線路と山

町の中央を荒川が東流し、その右岸の川岸段丘に町が帯状に開けている皆野は、多くの峠に囲まれ、交通と情報の行き交う町として栄えた。度重なる大火で多くの建物を失ったが、昭和の香り漂う懐かしい町並みは健在で、秩父事件の中心地域としても知られる。埼玉を代表する民謡、秩父音頭発祥の地であり、俳句の町らしく、町内各所に投句箱が置かれている。『昭和レトロ』をモチーフとした観光振興に取り組む。

(写真は皆野駅)

2

住宅



通りに入ってまず宿場の名残を感じさせてくれる越屋根のある商家建築が建っている。2つの高窓には赤色の覆いがされている。

3

商家



一階の格子戸と、木枠の装飾のあるガラス窓が特徴。外壁の片側は朱色に塗られ、耽美的な雰囲気である。

4

病院



秩父音頭編纂に尽力した金子伊昔紅、その息子で俳人金子兜太の生家。診療所は父、伊昔紅が大正15年に開いた。門から見える木造家屋はかつての病院で、壺春堂。

5

店舗



この赤い文字の屋号と木製の雨戸に昭和のにおいを感じる。二階の雨戸と赤銅色のトタン屋根との相性は味わい深い。




6

店舗



昭和4年創業の埼玉を代表する味噌蔵のひとつで、地域の人々に愛されてきた秩父伝統の味を今に伝える貴重な商店。大きな金字の看板に貫禄を感じる。要予約で10人から工場見学、味噌作り体験をすることができる。

7	住宅	8	蔵	9	火の見櫓
					
<p>道路幅いっぱいには建築物の立つ旧宿場の通りの中、この一帯で珍しくセットバックして建つ木造家屋。現在は会社の事務所として活用されている。</p>		<p>漆喰の白い壁と腰壁に施された黒い木肌のコントラストが美しい。</p>		<p>秩父の里山で唄い、踊られていたものを整え、現在の広く知られる秩父音頭としたのが金子伊昔紅。その秩父音頭家元の碑の後ろに控えて立つ櫓は、役目を終えた今も町を見守っている。</p>	
10	裏通りの風景	11	裏通りの稲荷神社	12	皆野駅
					
<p>裏通りに入らないと見ることのできない風景もある。扇の紋が施されたきれいな蔵や、入射にほのぼの光る空地、絡まるつる草の方が元気そうな木々。</p>		<p>主要な道の一本裏の通りを散策すると、立派な蔵やお社が次々と発見できる。その中で、小さいけれど日常的に大切にされているのがよくわかる稲荷神社。</p>		<p>秩父鉄道カラーの赤褐色の屋根が特徴の木造駅舎。ひよろりと伸びる松の木がかわいらしい。</p>	
13	駅前通り	14	旅館	15	店舗
					
<p>木造駅舎から一步出ると、期待を裏切らない昭和の町並みが出迎えてくれる。その視界に常に同居している山々の雄大な姿も、忘れてはならない町の一部だ。</p>		<p>駅通り近くに建つ旅館。昭和レトロ散策の折には是非立ち寄りたい。</p>		<p>かつて立場という馬荷主が馬の休息と給水、そして馬主も休む酒屋であった。やがて店の前に駅ができ、鉄道輸送の時代となったこともあり、うなぎ屋になったという。店内には水原秋桜子や、金子兜太らの直筆俳句が飾られている。</p>	

16 新皆野橋	17 旧日野沢小学校	18 皆野駅線路と山
		
<p>荒川を挟んだ国道140号線、県道秩父児玉線がこの橋によって結ばれた。2010年10月に完成した橋には3.5mの歩道があり、四方にそびえる秩父の山々を一望できるビュースポットが造られている。</p>	<p>明治22年開校、平成14年閉校した山肌に住つ小学校。昭和30年建造の木造校舎と、グラウンドの間には谷筋の川が流れており、生徒は毎日この橋を渡って登校、休み時間には沢で遊んだことだろう。</p>	<p>秩父鉄道皆野駅は趣き深く、温かさを駅に感じる。駅前通りの商店や地元商工会等の関係が良好なことが駅の界隈に醸し出ている。線路がまっすぐ伸びた先に広がる山々は、人間の胸に残る原風景。懐かしくてほっとする。</p>